

# 富田貴史さんと

2014  
02  
07

## 鉄火味噌で

### 内部被ばくを

### 生き抜く日

Facebook イベントページ

<https://www.facebook.com/events/1443951742487056/>



～ 鉄火味噌作り (1部) 富田貴史さん 話し会 (2部) 「内部被ばくを生き抜く」上映会 (3部)



#### 日時・会場

2014年2月7日(金)

@「ユニコムプラザ さがみはら」  
(相模大野駅前)

実習室1

<タイムテーブル> (各定員: 30名/40名/48名)

・1部・10:00～15:00 (間に昼休みあり) **3,300円**

・2部・15:30～17:00 「放射能汚染と向き合う実践とこれからの課題について」 **500円**

・3部・17:30～20:00頃 **1,000円**

※昼食として、おにぎり+奥沢山味噌汁を用意致します(400円)。弁当持参可。持寄り大歓迎!

#### <鉄火味噌について>

放射能、電磁波、抗生物質、化学物質などの影響で低下しがちな免疫力を高める養生食品です。

長期熟成の豆味噌と根菜類(生姜、牛蒡、人参、蓮根)をていねいに炒り上げる鉄火味噌は、血液を温め解毒力を高め、免疫力を向上させる食薬として古来から大事に使われてきたものです。

〒252-0303  
相模原市南区  
相模大野3丁目  
3-2  
bono相模大野  
サウスモール3F  
TEL 042-701-4390

★1部のみ、2部のみ、3部のみ、通し、など参加方法はご自由にどうぞ。

★広い休みのスペースが1件設。お子さまお連れの方もOKです。

★お気軽にご参加下さい。

★映画「内部被ばくを生き抜く」の詳しい裏面をご覧ください。

一生モノとなる知恵を身に付け、自分の立役を示す映画、共に考え、シェアする話し会。この貴重な機会にぜひ!

○申込・問合せ先 ○ 主催: 衣食住を考える会 from jam nippon  
TEL: 090-1841-6662 mail: jam\_nippon@yahoo.co.jp (ミヤザキまで)

# 1部 身につけよう!「一生モノ」の知恵



## 鉄火味噌作りワークショップ

携帯電話、インスタント食品、電子レンジ、放射能etc...  
現代には身体を陰性化するもので溢れています。  
鉄火味噌は極陽の養生食として、陰性化した身体を中和し整えます。  
被ばく対策としても最良の効果を発揮する鉄火味噌作りを富田貴史  
さんから学べる貴重な機会。  
みんなでワイワイと、楽しみながら調理しましょう。  
(鉄火味噌の詳細は表面参照)



### 富田貴史さんからのメッセージ

「自給＝田畑を耕すこと」と限定的に捉えると「町に暮らす私にはできない」というブレーキが働いてしまうかもしれません。  
しかし実際は、味噌や梅干のような加工品、衣類、それらを流通させるマーケット、それらの価値を伝えるメディアやスペースも、自給することができます。  
「何か一つでも自給を始めてみる」という行為そのものが、精神的な自立、安心感、自信、自分で考える心を育むことにつながると思います。

# 2部 考えよう!「みんな」の問題



## 富田貴史さんお話し会「放射能汚染と向き合う実践と今後の課題について」

富田貴史さんが普段行っている活動や考えていることを通し、実践的な放射能汚染対策、生活全般の知恵や心構え、政治や市民活動への関わり方、また意見の異なる人達とのコミュニケーションの取り方、など現代を住み良く生きるためのメソッド全般のお話しをしていただきます。  
その中で、今後の課題について富田さんからの問題提起を元に、「みんなで学び・考え・シェアし、1人1人が伝え手となる。」そんな会にしたいと思います。



### 【富田貴史プロフィール】

京都在住。全国各地で年間300本以上のイベント・ワークショップを続けている。ワークショップのテーマは、暦、エネルギー、手仕事、自家発電など。  
『母笑み疎開保養大作戦～海旅Camp』共同代表。  
大阪中津『富貴工房』代表。著書「わたしにつながるいのちのために」、「今、わたしにできること～目に見えないものをみつめて生きていく～」ほか

# 3部 知ろう!「未来」のために



## 映画「内部被ばくを生き抜く」上映会

### 未知なる危機に備えて 監督 鎌仲ひとみ

2011年3月に起きた東北大地震によって原発が4つも爆発してしまった、その後の世界に私たちは生きています。大量の放射性物質が放出され、広範囲に拡散したことは解っているが、ではどれだけ出たのか実は正確な情報がない。放射性物質は環境に溶け込み、生態系に入り込んだ。呼吸や汚染された水・食品を通じて引き起こされる内部被ばくは、この時代に生きる私たち全員の問題となった。これからいったい何が起きるのか、正確に予測できる人は実はいない。ただできることはありとあらゆる情報と可能性を吟味して、「命」を守る努力をすることだ。放射能は様々な局面で「命」の脅威となりえる。私たちは生き抜かねばならない、そのためのささやかな助けとなればとこの作品を作った。

まもりたい! 未来のために

## 内部被ばくを生き抜く

4人の医師が語る経験・広島ーチェルノブイリーイラクー福島



早稲田大学卒業後ドキュメンタリー制作の現場へ。フリーの映像作家としてテレビ番組、映画を監督。2003年ドキュメンタリー映画『ヒバクシャー世界の終わりに』以降、2006年『六ヶ所村ラブソフィア』、2010年『ミツパチの羽音と地球の回転』の3部作で放射能汚染、被ばく、原発やエネルギーの問題を追いつけてきた。



## グラデーシヨンの世界

「内部被ばく」に関しては、低線量の放射線は安全であるから始まってどんなに微量でも身体の中に入った放射性物質は危険である、まで異説、異論がこの世界には存在する。それはまさしくグラデーシヨンのような世界に見える。放射能汚染もまた、まだらなグラデーシヨンを地上に描いている。私は放射能汚染を受けた現場で生きる世界中の人々の取材を通して、データにはならないが、現場には確実に被害を受け苦しんでいる人々がいることを身をもって経験した。そんな現場で実際に被ばくに関する医療活動を継続してきた4人の医師にこれからどう対処していけばいいのか、問いかけることにした。年齢

も経歴も違う4人の医師がこれまで内部被ばくに関して積み重ねてきた体験や研究は重なるところもあれば重ならないところもある。内部被ばくの影響は複雑で未知の部分も多い。それでも、この4人の医師の声に耳を傾けることで情報が混乱する中でも、自分にとっての立ち位置を見定めていただきたい。福島・二本松に生き続けることを決めた一家も登場する。現場の声を聞くことをまず一番に大事にしたいと思ったからだ。暮らし、家族、地域、など生身の人間の未来を配慮することなしに被ばくは語れない。どうやったらこの「内部被ばくの時代」を私たちは生き抜くことができるか、最前線で格闘する人々の声に耳を傾けた。

監督: 鎌仲ひとみ プロデューサー: 小泉修吉 助監督: 澤口佳代 撮影: 岩田まき子 編集: 青木亮 音楽: Shing02 2012 / カラー / デジタル / Hivision : 80分 + 特典映像 : 64分 16:9 LG

【日時・会場】2014年2月7日10時～20時頃 ユニコムプラザさがみはら 実習室 1  
【申込・問合せ先】主催: 衣食住を考える会 from jam nippon 連絡先: 090 1841 6662 メール: jam\_nippon@yahoo.co.jp